

# 米国ハイ・インカム BDCファンド(毎月決算型)

追加型投信／海外／株式

日経新聞掲載名：米BDC毎月



第19作成期 2022年11月15日から2023年5月12日まで

第109期 決算日  
2022年12月12日

第110期 決算日  
2023年1月12日

第111期 決算日  
2023年2月13日

第112期 決算日  
2023年3月13日

第113期 決算日  
2023年4月12日

第114期 決算日  
2023年5月12日

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、主として、米国の取引所に上場している株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当作成期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

## 当作成期の状況

基準価額(作成期末)	7,389円
純資産総額(作成期末)	1,392百万円
騰落率(当作成期)	-3.6%
分配金合計(当作成期)	300円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

### ■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

### ■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

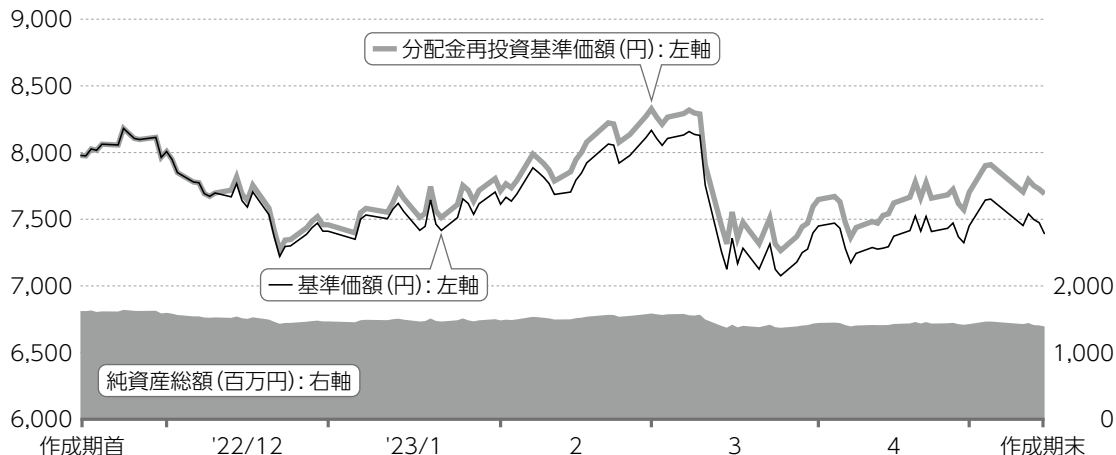
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2022年11月15日から2023年5月12日まで)

## 基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、作成期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

作成期首	7,979円
作成期末	7,389円 (当作成期既払分配金300円(税引前))
騰落率	-3.6% (分配金再投資ベース)

## 分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## 基準価額の主な変動要因(2022年11月15日から2023年5月12日まで)

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、主として、BDC(ビジネス・ディベロップメント・カンパニー)\*に投資しました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

※BDCとは、中堅企業等(中小企業から上場企業まで)の事業開発を主に金融面からサポートする投資会社をいいます。

### 上昇要因

- 概ね好調なBDCの決算発表により、BDC市場が上昇したこと

### 下落要因

- 欧米の金融不安から投資家のリスク回避姿勢が強まったこと等から、米ドル安・円高となったこと

1万口当たりの費用明細(2022年11月15日から2023年5月12日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
<b>(a) 信託報酬</b>	<b>76円</b>	<b>0.995%</b>	<b>信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数)</b> <b>期中の平均基準価額は7,624円です。</b>
(投信会社)	(45)	(0.592)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(29)	(0.377)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.026)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
<b>(b) 売買委託手数料</b>	<b>4</b>	<b>0.052</b>	<b>売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数</b> 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(4)	(0.052)	
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
<b>(c) 有価証券取引税</b>	<b>0</b>	<b>0.000</b>	<b>有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数</b> 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.000)	
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
<b>(d) その他費用</b>	<b>1</b>	<b>0.012</b>	<b>その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数</b>
(保管費用)	(1)	(0.009)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(0)	(0.000)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
<b>合計</b>	<b>81</b>	<b>1.059</b>	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

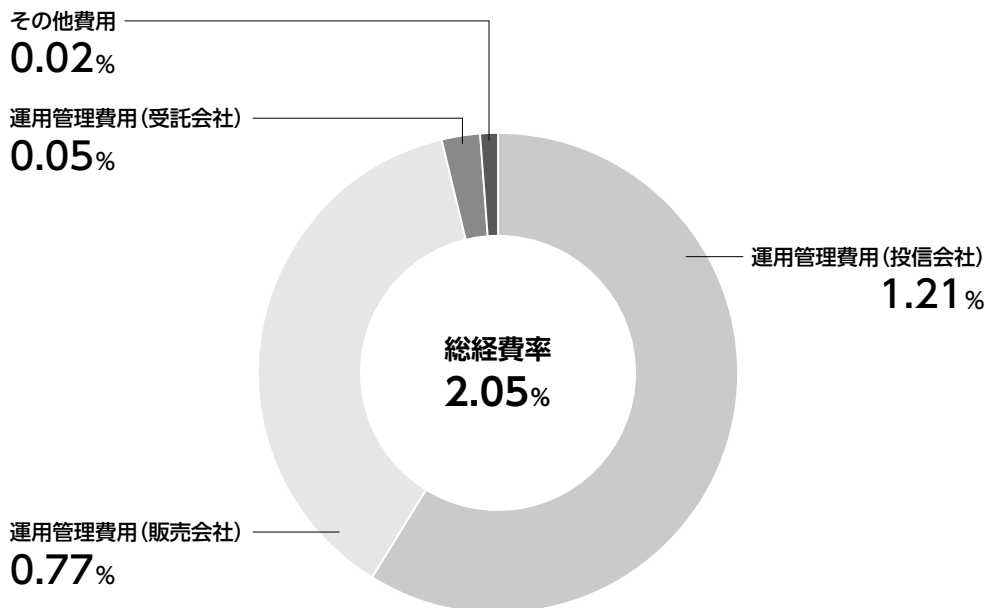
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。



## 参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

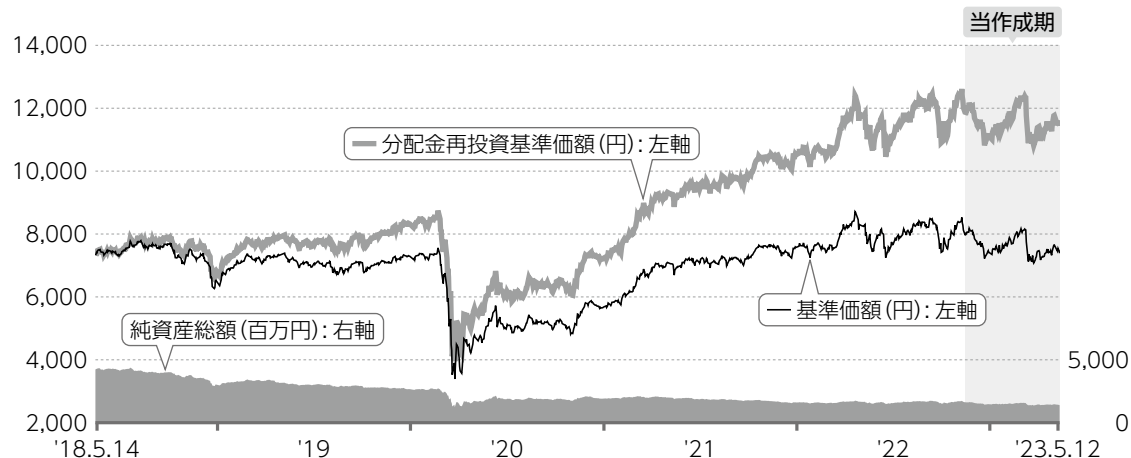
※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は2.05%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年5月14日から2023年5月12日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2018年5月14日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

		2018.5.14 決算日	2019.5.13 決算日	2020.5.12 決算日	2021.5.12 決算日	2022.5.12 決算日	2023.5.12 決算日
基準価額	(円)	7,327	7,203	4,746	6,849	7,906	7,389
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	600	600	600	600	600
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	6.7	-27.7	60.3	25.0	1.0
純資産総額	(百万円)	4,231	3,097	1,723	1,912	1,587	1,392

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境について(2022年11月15日から2023年5月12日まで)

**BDC市場は、上昇しました。為替市場は米ドル安・円高となりました。**

## BDC市場

期初より、米国の利上げ長期化観測等を背景に景気後退懸念が強まり、米国株式市場が下落する中、BDC市場も下落しました。しかし、12月中旬には、米国の11月分の消費者物価指数の伸びが予想を下回ったことや、FOMC(米連邦公開市場委員会)で政策金利の引き上げ幅が0.5%に縮小されたこと等から、米国の金融引き締めの長期化観測が後退する中、BDC市場は上昇に転じました。年明け後も、中国のゼロコロナ政策の終了等によりグローバル景気に対する安心感が浮上したこと等からBDC市場は上昇しました。

2月には、FRB(米連邦準備制度理事会)が政策金利を0.25%引き上げることをFOMCで決定しましたが、根強いインフレ圧力やFRB高官によるタカ派(インフレ抑制を重視する立場)的コメント等、材料が拮抗する中、BDC市場は一進一退の展開となりました。3月、米国の地方銀行の破綻やクレディ・スイスの経営問題の報道が重なり、金融システム全体への不安が高まる中、BDC市場は急落しました。その後、スイスの金融機関UBSによるクレディ・

スイスの買収発表や、各国金融当局が金融不安解消に向け、預金保護や資金供給等の対応策を迅速に打ち出したことから、BDC市場は変動性を伴いながらも上昇に転じました。

4月以降、概ね好調なBDCの決算発表や、金融不安の後退に伴うリスクセンチメント(投資家心理)改善は好材料となった一方、米景気減速への警戒感やFRBの金融政策を巡る思惑に左右され、値動きの荒い展開となりました。

期を通じてみると、BDC市場は上昇しました。

## 為替市場

米ドル/円は、米ドル安・円高となりました。

期初、米国の景気減速懸念を受けた米金利低下や、日銀が長期金利(10年国債利回り)の許容変動幅を拡大したこと等による、日米金利差の縮小観測により、米ドル安・円高となりました。2月には、予想以上に強い米経済指標を受けて早期の利上げ停止期待が後退し、米長期金利が上昇する中、米ドル高・円安で推移しました。

3月、欧米での金融不安の高まりによる米金利の低下や、投資家のリスク回避姿勢の強まりにより、米ドル安・円高の展開となりました。期末にかけ、弱めの米経済指標による米国の景気減速懸念が米ドル安要

因となった一方、欧米の金融不安の後退や、新日銀総裁が従来の緩和姿勢を維持することを示したこと等が米ドル高要因となり、緩やかながら米ドル高・円安傾向で推移しました。

### ポートフォリオについて(2022年11月15日から2023年5月12日まで)

#### 当ファンド

期を通じて、主要投資対象である「米国ハイ・インカムBDCマザーファンド」を高位に組み入れました。

#### 米国ハイ・インカムBDCマザーファンド

期を通じて、概ね既存のポートフォリオを維持しました。

### ベンチマークとの差異について(2022年11月15日から2023年5月12日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。



分配金について(2022年11月15日から2023年5月12日まで)

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、以下の通りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期	第114期
当期分配金	50	50	50	50	50	50
(対基準価額比率)	(0.65%)	(0.65%)	(0.64%)	(0.68%)	(0.68%)	(0.67%)
当期の収益	14	50	6	46	50	6
当期の収益以外	35	—	43	3	—	43
翌期繰越分配対象額	973	1,042	999	997	1,074	1,030

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。  
 ※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

## 2 今後の運用方針

### 当ファンド

引き続き、主要投資対象である「米国ハイ・インカムBDCマザーファンド」の組入れを高位に保ちます。

### 米国ハイ・インカムBDCマザーファンド

F R Bのこれまでの金融引き締め政策による米経済への影響を含み、足元の投資環境における様々な不確実性がBDC市場の重石となることが見込まれます。一方、企業活動に伴う米国企業の収益改善期待、米

金利上昇に伴うBDCの収益改善期待等がBDC市場の支援材料となるとみています。

運用方針に変更はなく、引き続き独自のローン組成プラットフォームを有するBDCや、ニッチな分野において良質の案件を発掘する能力を有するBDC、主に担保付シニア案件に投融資するBDC等に焦点を当てて運用を行っていきます。

## 3 お知らせ

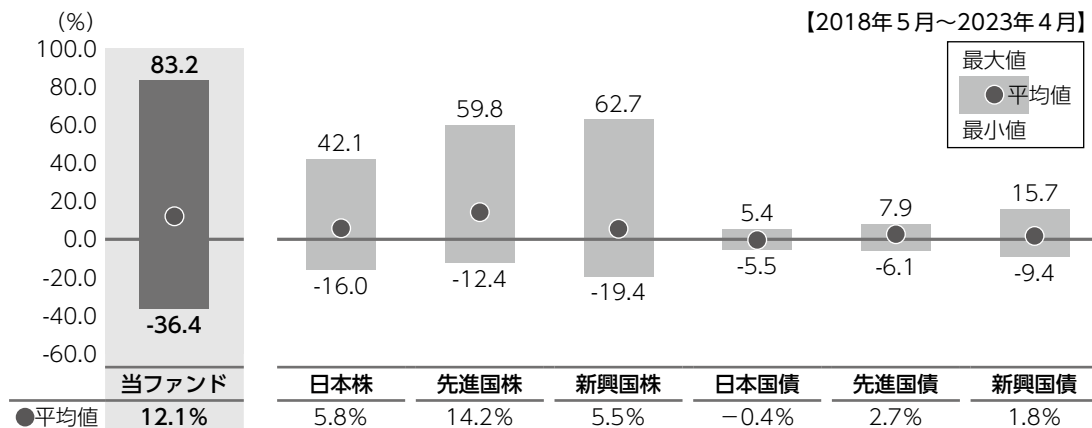
### 約款変更について

該当事項はございません。

## 4 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／株式
信 託 期 間	2013年11月29日から2023年11月13日まで
運 用 方 針	マザーファンドへの投資を通じて、主として、米国の取引所に上場している株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主 要 投 資 対 象	当ファンドは以下のマザーファンドを主要投資対象とします。 <b>米国ハイ・インカムBDCマザーファンド</b> 米国の取引所に上場している株式等
当 フ ァ ン ド の 運 用 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■主として、米国の取引所に上場している株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。</li> <li>■マザーファンドの運用にあたっては、アドバイザー・リサーチ・インクに運用の指図に関する権限の一部を委託します。</li> <li>■実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。</li> </ul>
組 入 制 限	<p><b>当ファンド</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■株式への実質投資割合には、制限を設けません。</li> <li>■外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。</li> </ul> <p><b>米国ハイ・インカムBDCマザーファンド</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■株式への投資割合には、制限を設けません。</li> <li>■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。</li> </ul>
分 配 方 針	<ul style="list-style-type: none"> <li>■毎月12日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、分配を行います。</li> <li>■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。</li> <li>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。</li> </ul> <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

## 5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

### 各資産クラスの指数

<b>日本株</b>	<b>TOPIX (東証株価指数、配当込み)</b> 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
<b>先進国株</b>	<b>MSCI コクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース)</b> MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
<b>新興国株</b>	<b>MSCI エマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース)</b> MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
<b>日本国債</b>	<b>NOMURA-BPI (国債)</b> 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
<b>先進国債</b>	<b>FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)</b> FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
<b>新興国債</b>	<b>JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)</b> J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

## 6 当ファンドのデータ

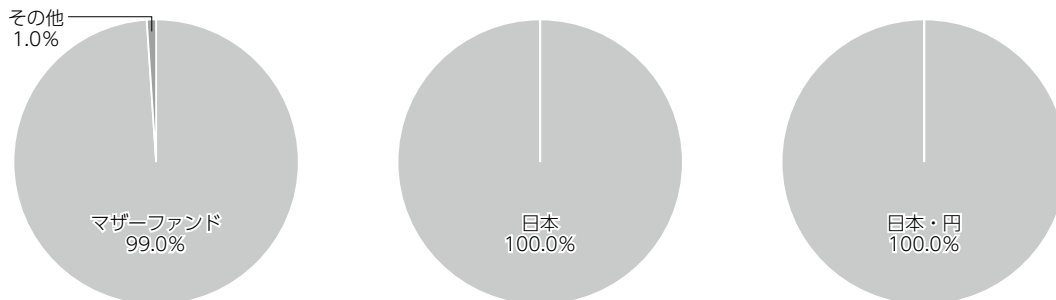
### 当ファンドの組入資産の内容(2023年5月12日)

#### 組入れファンド等

銘柄名	組入比率
米国ハイ・インカムBDCマザーファンド	99.0%
コールローン等、その他	1.0%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

#### 資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

#### 純資産等

項目	第109期末	第110期末	第111期末	第112期末	第113期末	第114期末
	2022年12月12日	2023年1月12日	2023年2月13日	2023年3月13日	2023年4月12日	2023年5月12日
純資産総額 (円)	1,520,990,666	1,509,054,196	1,499,030,061	1,400,768,818	1,411,723,280	1,392,124,438
受益権総口数 (口)	1,983,554,978	1,980,744,207	1,945,775,414	1,929,805,456	1,938,453,652	1,884,019,129
1万口当たり基準価額(円)	7,668	7,619	7,704	7,259	7,283	7,389

※当作成期における、追加設定元本額は50,853,109円、解約元本額は201,098,278円です。

組入上位ファンドの概要

米国ハイ・インカムBDCマザーファンド(2021年11月13日から2022年11月14日まで)

基準価額の推移



1万口当たりの費用明細

(単位：円)

項目	(内訳)	金額	(内訳)
売買委託手数料	(株式)	20	(20)
有価証券取引税	(株式)	0	(0)
その他費用	(保管費用)	4	(4)
	(その他)		(0)
合計		24	

※項目の概要については、前記「費用明細」をご参照ください。

組入上位銘柄

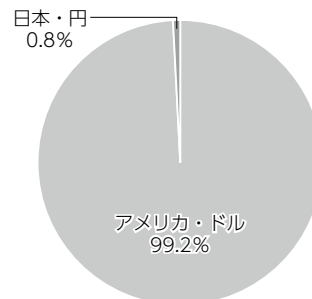
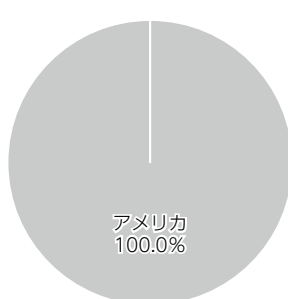
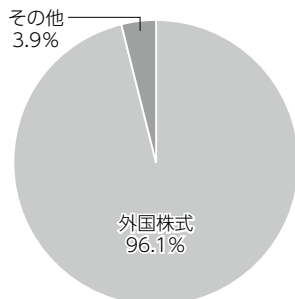
(基準日：2022年11月14日)

	銘柄名	業種	組入比率
1	ARES CAPITAL CORP	各種金融	8.6%
2	SIXTH STREET SPECIALTY LENDI	各種金融	8.1%
3	FS KKR CAPITAL CORP	各種金融	8.0%
4	OAKTREE SPECIALTY LENDING CO	各種金融	7.9%
5	HERCULES CAPITAL INC	各種金融	7.5%
6	MAIN STREET CAPITAL CORP	各種金融	7.3%
7	BLACKSTONE SECURED LENDING F	各種金融	6.7%
8	FIDUS INVESTMENT CORP	各種金融	5.4%
9	SARATOGA INVESTMENT CORP	各種金融	5.0%
10	BARINGS BDC INC	各種金融	4.8%
	全銘柄数	17銘柄	

※比率は、純資産総額に対する割合です。

※全組入銘柄につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

※基準日は2022年11月14日現在です。